

## 第 13 期自然環境部会令和 8 年 5 月定例会議報告

2026 年 5 月 9 日（土） 9:35～11:40

M サポ会議室

出席者 12 名

酒井千富（前橋市）、高橋陽子（伊勢崎市）、井上金治（前橋市）、金子昭一（伊勢崎市）、西村良子（前橋市）、富岡賢洋（前橋市）、田中和夫（高崎市）、原田邦昭（高崎市）、青木裕一（伊勢崎市）、尾内勝子（前橋市）、北爪真由美（前橋市）、国安俊夫（前橋市）

### ○クビアカツヤカミキリ捕獲用ペットボトルトラップ作成

まず、井上金治様より「今回は大型の昆虫が捕獲されない環境に配慮したトラップを作成しその効果を検証したい」との趣旨説明があり、更に酒井千富様より記録登録様式案の提案があり、意見交換を行った。その結果、井上様から提案のあった形のトラップ（1ℓ入りのペットボトル、底から 13 cm のところに縦 3 cm、横 3.5 cm の切り込みを表裏に入れ、折り込みすぎないように。誘引液は黒砂糖・焼酎・酢をブレンドし、オプションでバナナやメープルシロップを加えたもの）を共通に設置するとともに、各自が形や誘引物質、設置箇所等工夫を凝らしたものを作成・設置し情報を集約することとし、トラップ作成を行った。なお、記録様式について、個人情報管理等の観点から修正意見も出たので、改良したものを後日共有することとした。

### ○上野村林野火災後の復興について

高橋陽子様より、別紙に基づき提案があり、原田邦昭様及び酒井千富様より補足説明の後意見交換を行った。その結果、とりあえず先進的な取り組みをしている上野村からのヒアリングと意見交換の場を設けることが承認され、高橋様が窓口となり村と日程調整を行い後日連絡を行う事となった。

○幹事会報告等時間が無く、メーリングリストに議事録を流し情報共有することが了承された。

### ○次回例会開催日程

7 月 18 日（土） 13:30～15:30 M サポ会議室

# 上野村林野火災後の復興についての提案書

令和 8 年 5 月 9 日

自然部会 高橋陽子

## 1. 目的

日本中の森林周辺と都市部に於いて、熊やサル、イノシシ、鹿までもが逃れるように都市部への出没情報が後を絶ちません。そんな中、群馬県上野村では、熊の出没情報が群馬県内では唯一、村内で一件もありません。森林周辺部の人家近くにまで熊が出没する事もなく、豊かな森林環境であることを確認してゆきたいと群馬県環境アドバイザーの自然部会で言及していた矢先に、上野村での森林火災が発生、18 日間に及ぶ 192ha の林野火災がありました。幸いにも、ケガ人や住宅への人的被害がなかったとの事は不幸中の幸いでもありましたが、森との関わりに於いて、日本中で林野荒廃が叫ばれる中、上野村での森林施業のあり方やこれからを地域の方や森林環境に興味がある方々等々と共に「上野村森林施業から見る、日本の森林環境の再考」を学び、創造し考えてゆくべきと思い「森林復興への関わり」を提案いたします。

## 2. 方法

先だって、R 8. 5.6 に上野村の地元の方に伺い、上野村村役場の方とお会いしてきました。その折に、上野村の森林造成について、学びたい旨をお伝えしたところ、快く承諾して頂きました。

日程を決め、上野村役場職員の方や上野村村長さんも出席した、「私たちに何ができるかと、森林環境を学ぶ場として活動するための意見交換会」の会合を設けて頂けるとのことでした。

上野村には、「かじかの里学園」という、山村留学施設（都市部の子供たちが地元学校に留学）もあり、その施設職員の方にも声掛けをしましたので、村内の子どもたちにも何らかの形で環境教育という面で関わってゆけたらと思いました。

## 3. 期間

どのように関わってゆくか決まり次第決定する

## 4. 自然部会からの意見・提案（メールにて頂いたもの）

①高崎の原田邦昭です。山林火災は群馬でも妙義山、上野村と続きました、まず、原因を突き詰めることです。自然火災か人災か？（県に調査してもらう）その後、並行して現場を見せてもらい、市町村では対さくはどうしているのか？山林の再生はどうしているか？われら、環境アドバイザーとして、お手伝いできるか？（例：植林、倒木の始末、道普請）今後の対策として、地域住民に自然林の大切さを知らせる。動植物の生態への配慮も含めて、資金集めも出来れば、対応する。などは如何でしょうか？

②酒井です。森林火災により消失した森林再生ということですが、私としては、森林火災の再生に関わったことがないので、具体的にどんなことをするのか（何が出来るのか）。イメージがわかりません。いくつか、必要なアプローチがあるように思います。

### 1. 現地の状況調査

### 2. 森林再生の定義（目標とする森林のすがた）

### 3. 現状と目標の差分抽出

よくいわれるバックキャスティングですが、2 番の目標はなかなか難しく、誰の視点で考えるかによると思います。（視点により、価値が変わるので）また、3 番まで検討したとして、具体的な行動には、私たちのもつ資源とその分配が必要になります。なので、1. 2. 3 の前に資源の棚卸しが重要になります。

### ③広報委員会の方の酒井です。

懸案の林野火災後の再生について、H26 年度に桐生にて発生した林野火災後の初期調査報告と復旧事業の資料が web 上にありましたので参考にお知らせいたします。

### ① 群馬県桐生市で発生した林野火災の当年の植生回復

<http://kantoforest.jp/papers/pdf/67-1-S17.pdf>

### ②平成 26 年群馬県桐生市山火事被災地の復旧

お時間のない方は、チャッピーの要約をご覧ください。

#### ① 林野火災後の植生回復に関する研究（論文）の要約

2014年に群馬県桐生市で発生した大規模な林野火災後、森林の地表（林床）の植生回復状況を調査した研究です。

火災により林床植生が焼失し、土壌がむき出しになったことで、雨による侵食や土砂災害リスクが増加

火災当年（7月・8月・11月）に広葉樹林・スギ林・ヒノキ林で植生回復を比較

（主な結果）

スギ林：回復が最も早く、8月には植被率50%以上

広葉樹林：萌芽（切り株などからの再生）が活発で回復傾向あり

ヒノキ林：光不足の影響で回復が遅い

（重要なポイント）

回復初期は「埋土種子（地中にある種）」が大きく寄与

植生が十分に回復するまでは土壌流出のリスクが高い

ヒノキ林では間伐などによる光環境改善が必要

#### ② 山火事跡地の復旧事業（パンフレット）の要約

同じく2014年の桐生市山火事の被害と、その後の復旧・森林再生の取り組みをまとめた資料です。

（火災の概要）

焼失面積：263ha（群馬191ha）

被害額：約7.8億円

強風・乾燥条件で拡大した大規模火災

（火災後の問題）

表土流出・洪水・土石流の危険性が増大

実際に発災後まもなく土砂流出が発生

（復旧の取り組み）

治山工事＋森林整備を組み合わせる復旧

水源林造成事業により植林（主にスギ）を実施

約90haを対象に人工造林と自然再生を併用

（特徴的な対策）

萌芽更新や天然更新を活用（自然の回復力）

シカ害対策（防護柵・ブロックディフェンス）

作業道整備などの基盤づくり

（成果と今後）

令和3年度までに植栽完了

森林は「針広混交林」として再生中

災害は減少傾向だが、森林整備の効果検証は今後の課題

全体のまとめ（2資料の共通点）

山火事後は「土壌流出」と「災害リスク増加」が大きな問題

初期回復は自然（萌芽・埋土種子）が重要

ただし、人為的な整備（植林・間伐・治山）が不可欠

森林再生には長期的な管理が必要